

I 学校の教育目標

6さと大山を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成～高い志を持ち、主体的に学習や運動に取り組む生徒の育成

II 育成を目指す資質・能力

対話力の向上

IV 学校評価4点セットの学力の重点目標

表現力の向上

V 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

・期末テスト(全教科)における記述式回答の回答率80％以上。
・期末テスト(全教科)における思考力・判断力・表現力を問う記述式問題の回答率65％以上。
・生徒アンケートで「小集団(ペア)の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答える生徒75％以上。

VI 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善 テーマ	対話を通して考えを深め、表現力を高める授業づくり ～生徒指導の3機能を活用した授業を通して～
②授業改善の 重点	「対話的な学び」の場を充実することで表現力を高める授業の推進。

(研究仮説)

問題解決の場面での生徒たちの思考に沿った課題を提示したうえで、生徒指導の3機能を取り入れた授業展開を仕組み、生徒に他者との対話を柱とした協働的な活動に取り組ませれば、表現力を高めることができるであろう。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1 学期	○授業において、「対話的な学 び」を充実させる。	○单元ごとに、授業者は「対話的な 学び」を主とした授業を実践。 ○各学期に1回、「主体的な学び」 の好事例の共有を図るため、 互見授業および授業実践交流会 を実施。 ○2週間に1回データベースやキュ ビ ナを使った単元テストを実施。	○授業評価「小集団(ペア)の話し 合いで、自分の考えを友だちに伝え たり、新たな気づきや多様な 意 見 に対する考えを言い合ったりするこ うができた。」の項目にA評価55％ 以上。 ○生徒アンケート「授業や生徒活動 で、友だちと意見交換しながら、課 題 解決に取り組むことができてい る。」の項目にA評価60％以上。 ○定期テスト(5教科)における問 題・データベースから出題する基礎 ・基本問題の平均正答率 70％以上	○授業評価「小集団の話し合いで自 分の考えを友だちに伝えたり深め たりすることができた」の項目に肯定 的評価96％ ○生徒アンケート「授業や生徒活動 で、友だちと意見交換しながら課題 解決に取り組むことができている」 の項目に肯定的評価96％ ○定期テストにおける基礎基本の問 題の平均正答率は、72％ 上記の結果から、対話的な活動を を通して、自分の考えを概ね伝えるこ うができていいると考える。

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2 学期	○授業において、「対話的な学 び」を充実させる。	○单元ごとに、授業者は「対話的な 学び」を主とした授業を実践。 ○各学期に1回、「主体的な学び」 の好事例の共有を図るため、 互見授業および授業実践交流会 を実施。 ○2週間に1回データベースやキュ ビ ナを使った単元テストを実施。	○授業評価「小集団(ペア)の話し 合 いで、自分の考えを友だちに伝えたり、新 たな気づきや多様な 意 見に対する考えを 言い合ったりすることができた。」の項目 にA評価55％以上。 ○生徒アンケート「授業や生徒活動で、友 だちと意見交換しながら、課題 解決に取 り組むことができている。」の項目にA評 価60％以上。 ○定期テスト(5教科)における問題・デ ータベースから出題する基礎・基本問題 の平均正答率 75％以上	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3 学期				

III 児童・生徒の課題

学力状況について		学習状況について
児 童 ・ 課 題 生 徒 の	現2年は、「日田市学力調査」(R7.1月実施)において、4教科は全国の平均を上回った。英語は、若干下回っている。現3年生は、3教科は全国平均を上回っているものの、理科・英語の2教科については、若干全国平均を下回っている。	令和6年度3学期末生徒アンケート結果より ○授業内容を理解することができている。 肯定的回答 :89％ ○課題に対し、自分の考えを書くことができる。 肯定的回答 :89.7％ ○授業や生徒活動で、友だちと意見交換しながら課題解決に取り組むことが できている。肯定的回答 :97％

VII 学習定着状況の把握とフォローの取組 および 個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1 学期	○朝学習時に読書タイムを設け、週一回読書日記を実施。 ○帰りの学活前のドリルタイムで基本的な学習内容の定着を図る。 ○5教科において単元テストを行う。	○教員は、毎日、ドリルタイムにQubenaを中心とした補充学習を実施する。 ○5教科担当は、必要に応じて小テストを行い単元テストも実施する。また、 学期に2回程度、定期テスト後の確認としてプラムタイムテストを実施する。	○
2 学期			
3 学期			

◎＝達成(10割以上)、○＝概ね達成(8割以上)、△＝やや未達成(6割以上)、×＝未達成(6割未満)

VIII 学校・家庭・地域の協働の取組 ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評 価	1 学 期	○
家 庭	○家庭学習の確立 ○メディアルールの順守	○保護者は、学期に1回以上家庭学習の時間やメディア ルールの点検・評価を行う。		2 学 期	
地 域	○表現し、対話する場の設定	○地域の読み聞かせボランティアは月1回の「読み聞かせ」をする 読み聞かせ終了後、教員は感想や発表の場を設定する。 また、学期に1回以上体験活動・地域住民との対話の機会 を提供する。		3 学 期	

◎＝達成(10割以上)、○＝概ね達成(8割以上)、△＝やや未達成(6割以上)、×＝未達成(6割未満)

IX 令和7年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和7年度学校評価の4点セット 達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期	※学期末の評価を1～4で入力 (達成指標が複数ある場合は、平均 を四捨五入した数値)
	3			

※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

① 「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいて、 単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教 員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当 者数 7人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点	11月末時点
		42 %	%

※割合(%)は四捨五入して整数表示

② 管理職または教務主任等は、授業観察シートをもとに、経験の 浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察 を行う。	1 学 期	○	2 学 期		3 学 期	
---	-------------	---	-------------	--	-------------	--

※プルダウンで○、×を選択

③ 計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の 教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1 学 期	○	2 学 期		3 学 期	
--	-------------	---	-------------	--	-------------	--

※プルダウンで○、×を選択